

株式会社 千葉銀行

社会学部経営社会学科

3年 新妻 千里

1. 実習企業（団体）の概要

昭和18年3月、千葉合同銀行・小見川農商銀行・第九十八銀行が合併、誕生した。千葉県を主要営業基盤とする地方銀行。千葉県経済の発展とともに成長を遂げ、預金残高10兆9,669億円、貸出金残高8兆9,943億円は、国内地方銀行において第2位の規模である。(2016年9月30日現在)

- ・設立 1943（昭和18）年3月 ・資本金1,450億円 ・総資産13兆4,969億円
- ・所在地 千葉県千葉市中央区千葉港1-2 ・従業員数4,443人
- ・取締役頭取 佐久間 英利

2. 実習内容

営業店の主な業務内容説明（渉外業務（法人・個人）・融資業務（法人・個人）・窓口業務（テラー）業務）、本部の主な業務内容説明（法人営業部・審査部・市場営業部・東京営業部）、企業分析の疑似審査体験、職場見学、関連会社の説明（ちばぎん証券）、若手社員による座談会

3. 実習の成果

銀行は信託業務や証券などあらゆる分野で活躍していることがわかりました。そして様々な分野において、銀行はB to BやB to Cの両方とも関わりがもて、お客様との信頼関係やコミュニケーションの重要性について理解できました。千葉県の立地や自然環境やバランスのとれた産業、物流などを有効活用できる千葉銀行ならではの地域社会の発展と貢献に力を入れていることもよくわかりました。

座談会では二人の若手社員の方のお話を聞いて、お客様の信頼を失わないように自分でよく考えて行動するということを学び、教えて頂きました。そこでは、入社して間もないころに先輩に頼まれた仕事を自らやるものの次第にわからないまま仕事が増えていき、会社を辞めようか考えていたお話も伺いました。その後は先輩や行員に手伝ってもらおうなど誰かに頼ることも人に対する信頼を生むということも学んだそうです。私はあまり人を頼ることはせず、後々切羽詰まってしまうことがあるので相手から信頼をしてもらうことはもちろんのことですが、自分自身も相手を信頼するということが重要であることを学ぶことができました。

4. 実習の感想

私は、このインターンシップでの3日間を通して、様々な体験とお話を聞くことができました。千葉銀行で行う業務がどのようなものがあるかを知ることができました。私は企業分析の疑似審査体験がとても印象があり、簿記がある程度できないと難しい内容であると思いました。堅苦しいイメージもありましたが仕事もプライベートも行員の仲の良さや働きやすい環境であることを知ることができました。自分自身が成長していける、また人と人の繋がりを大切にしながら信頼性を高め深めていくことができる銀行だと思いました。今後は、行動力や人間力も向上するよう努め、就職活動に活かしていきたいです。

— 実習プログラム —

日数	実習日	実習内容
1日目	2月21日(火)	千葉銀行概要、グループワーク、若手社員との座談会
2日目	2月22日(水)	本部業務(法人営業部)、企業分析の疑似審査体験(審査部)
3日目	2月23日(木)	職場見学(市場営業部・東京営業部)、業務内容説明(市場営業部)、関連会社の説明(ちばぎん証券)